



大井町議会だより 2023.11.1 No.217

ひ た よ ろ う ん

第3回定例会	2
9月5日から14日までの10日間 令和4年度決算認定	
第4回臨時会・審議議案と結果	10
委員会活動報告	11
夏休み子ども議場体験ツアー	
一般質問 ここが聞きたい(8人)	12
町のこの人あの人・意見募集	16

体力が続く限りプレーしたい

河原地区

はらだ としお
原田 十四男 さん



夏休み子ども議場体験ツアー

E-mail gikai@town.oi.kanagawa.jp

URL <https://town.oi.kanagawa.jp/site/gikai/>

令和4年度決算を認定

第3回定例会

令和5年第3回定例会は9月5日から14日までの10日間を会期として開催され、8人による一般質問の後、条例や補正予算、令和4年度決算等を審議しました。

令和4年度決算認定は、一般会計と3つの特別会計、2つの企業会計について町長から説明があり、また北村公男代表監査委員から監査報告がなされ、課長による説明を経て、質疑に移りました。

一般会計の審査においては、決算審査特別委員会を設置し、分野別に審査を行い、本会議では、委員長報告後、大石舞議員の反対討論、岡田幸二議員の賛成討論があり、賛成多数で認定されました。

また、その他5会計についても認定されました。

令和4年度 各会計の決算状況

単位：万円

会 計		歳 入	歳 出	差 引
一 般 会 計		68億3,494	63億4,632	4億8,862
国民健康保険特別会計		15億4,983	15億2,380	2,603
後期高齢者医療特別会計		2億6,999	2億6,201	798
介護保険特別会計		13億1,576	12億8,505	3,071
水道事業計	収益的収支	3億4,701	2億5,995	8,706
	資本的収支	1億5,080	2億9,877	△1億4,797
公共下水道事業会計	収益的収支	4億7,600	4億6,241	1,359
	資本的収支	9,330	1億9,040	△9,710



*金額は端数を調整して、万単位としております。

決算ダイジェスト

一般会計

組織管理

問 職員研修事業費が前年度比で大きく減額しているが、適切に実施されたのか。

答 事業費の増減は研修の内容によるもので、令和4年度も人材育成基本方針に基づき計画的に実施した。

問 光熱水費が高騰する中で、決算額も大きく増加しているが、庁舎内の対応は行ったのか。

答 今後とも、消費電力の節約に向け取り組んでいく。

行政運営

問 実質収支額が年々増加しているが、その評価は。

答 コロナ禍による地方創生臨時交付金で収入が増加したためである。

り、予定した事業に振り替えられたと分析している。

問 不用額が多くなっているが。

答 その多くは扶助費や工事請負費であり、年度末までの事業を考慮した結果である。

問 財政力指数が低下している原因と分析は。

答 臨時財政対策債の発行可能額が年々抑えられていたためであるが、地方交付税で賄われているので財政的には大きな影響はないと考える。

問 経常収支比率が悪化傾向にある理由は。

答 公債費の返済が増え、令和6年度7年度でピークとなるため。

問 法人税割の収入が落ちている原因は。

答 本町は中小企業が多く収益改善に至っていないため。

第3回定例会

問 町民税個人分における不納欠損の背景は、督促にはじまり段階的に徴収努力をしているが、財産調査などにより支払い能力がないと判断したものを計上している。

答 大賞が5,000円、優秀賞が3,000円、佳作は2,000円である。提案を広報誌などで紹介すべきでは。

問 PRは必要と思っている。

問 固定資産税が前年度比で増額しているが、その要因は。

問 令和4年度から導入した窓口キャッシュレス決済の利用率は。

答 感染症の影響による減額措置が終了したこと。また、新築家屋が増えたことによるものである。

答 利用率は、クレジットカードは1・5%、電子マネーは1・2%、コード決済は3・6%、現金は93・7%。約6%が窓口キャッシュレスで決済されている。

問 森林環境譲与税の今後の使途は。

問 ふるさと納税が増えた要因は。

答 令和5年度は、ゆめの里整備の財源として充てている。今後はナラ枯れ等への利用も検討していきたい。

答 抱き合わせの返礼品など、より寄附して頂けるようなセット物を作ったことが要因と考える。

問 職員提案制度について、民間企業では積極的に行われている。本町でも活発化していくべきと考えるが、報奨金の額は。

問 今後の戦略は。

答 企業版ふるさと納税の導入を考えている。

問 三世代同居移住定住促進事業について、今後も継続するのか。

答 移住定住に効果があり、費用対効果も十分であると思うので、今後も継続したい。

戸籍・協働

問 地域活動スタートアップ助成金の対象となったフードパントリー事業は、力を入れている自治体もあるが。

問 休日・夜間の申請受付やイベントにおけるPR活動を実施したことにより、令和4年度の交付枚数は4,885枚となった。

問 誤入力等のトラブルはなかったか。

答 特段、問題はなかった。

健康・福祉

答 補助金交付審査委員会にて良い取組みと評価している。県も力を入れており、本町としてもできる範囲で支援していきたい。

問 保育士等処遇改善臨時交付金は、本人へ支給されているかが杜



フードパントリー事業

問 マイナンバーカード保有率は県下でも3番目に高いが、普及に向けた取組みと交付実績は。

答 廃棄したワクチンは357バイアルである。廃棄費用は3,000円弱である。

問 敬老のつどいについて、フレイル予防や認知症対策として、分散するなど違う形での開催を検討できないか。また、敬老祝金のあり方は。

問 高齢者見守り機器購入費補助金について、利用件数と評価は。

答 敬老のつどいは、元気な方は良いが、来れない方もいるなど課題もあり、検討したいと考えている。祝金については、対象年齢を引き上げること検討したい。

問 令和3年度に2件、4年度に2件申請があった。制度のあり方を検討しながら進めたい。

問 各種がん検診の受診率向上に対する考えは。

問 妊婦・子育てタクシー利用費助成金の実績と評価は。

答 受診率は回復傾向であるが、依然低い状況である。通知を送付するなど受診率向上に向け努力したい。

問 福祉タクシー利用・燃料費助成金の交付実績は。

問 新型コロナウイルススワクチンの廃棄数と、廃棄に要した費用は。

答 タクシー利用者は85人、家用車の燃料費補助は122人である。



新たな農業の担い手

問 昨年の2月からタ
クシー料金体系が大幅
に変わっている。また、
ガソリン代も高騰し、
入れられる量が少なく
なっているが、対応は
答 利用者の声も聞い
た中で、来年度予算に
向けて対応したい。

生活・経済

問 農業次世代人材事
業費補助金の交付対象
者に期待するものは。
答 地域の中心的な担
い手として成長してい
ただき、遊休農地の解
消など町の農業振興に
つなげていきたい。

問 新規就農者に対す
る交付終了後の支援は。
答 サポートチームが
年2回経営についての
助言などを行っている
また、町単独の補助に
についても考えている。

問 塵芥処理事業つい
て、段ボールコンポス
トの実績が伸び悩んで
いるが、今後の対応は。
答 効果は出ていると
思うが、雨が降ると濡
れてしまうなどの課題
もある。他の自治体で
は電気製品のコンポス
トの助成もあり、今後
検討していきたい。

問 ドローンを購入し
たが、その活用状況は。
答 職員3名が資格を
取得した。猟友会等に
対し講習会を開催する
予定である。

問 フェイジョアの販
売促進の効果は。
答 大井スイーツとし
て400万円の販売実
績があった。

問 農業体験施設の指
定管理は要求水準に達
しているか。
答 施設の稼働率は30
%アップという水準に
対し実績として46・27
%までアップした。

問 ゴミの不法投棄の
実態と対策は。
答 昨年度は新たに9
か所で発生している。
対策としては、土地の
所有者に防止用の看板
を配付するなどを行っ
ている。

問 郷土資料館・農産
加工所は、利用が少な
いのではないか。目的
を達した施設であれば、
精査した上で閉鎖も選
択肢と考えるが。
答 観光資源の有効活
用として、これらの施
設を含めエリアを拡大
していく考えである。

問 この施設用地を含
め、本町は借地が多い。
必要なものは購入を進
めていくべきでは。
答 取得が必要と判断
したものは進めていき
たいが、相手があるこ
とも事実である。

問 防災備蓄品の内訳
は。
答 アルファ米、サバ
イバルフーズ、レトル
トご飯、液体ミルク、
使い捨て哺乳瓶、おも
つ（大人用・子供用）、
ウェットティッシュ、
生理用品等。

問 備蓄は充足してい
るか。
答 備蓄は充足してい
るか。

社会基盤・安全対策

問 今後は、簡易トイ
レなども検討するが、
ある程度は備蓄できた
と認識している。
問 廃棄に対する考え
方は。
答 できる限り廃棄は
減らし、有効活用に取り
組む。

問 町道501号線は
予定通り令和6年度に
開通できるのか。
答 工夫して対策を講
じながら進めたい。

教育・文化

問 遠隔授業用機材に
ついて、どのように活
用しているのか。
答 朝の健康チェック
などへの活用も行って
きたが、思うように進
んでいない。パソコン
教室のあり方も含めて
検討が必要である。

問 GIGAスクール
で配付されたタブレット
の破損や故障は、保
険等で対応すべきでは
なかったか。

問 台数も多く、多額
の費用を要することか
ら、修繕での対応が効
果的と判断した。

問 総合体育館の光熱
水費が増えているが、
使用料を改定する考え
は。
答 受益者負担の観点
から検討の必要はある
併せて稼働率を上げる
ことも検討していく。

問 ICT支援員の配
置状況は。
答 各校1名を配置。
週1回で212回とな
る。

問 児童生徒援助事業
費は、前年度比で減額
しているが、その要因
は。
答 就学援助の申請・
認定件数の減少である。
問 制度の見直しが重
要と考えるが、今後の
見込みは。

答 現在、計算ソフト
の導入を進めており、
反映されるのは、令和
6年度からとなる。

決算審査特別委員会で施策別に審査



令和4年度決算審査に際しては、本会議の審議において、議長発議により特別委員会が設置されました。企画経済・教育福祉常任委員会よりそれぞれ4人を選出し、合計8人の委員会が組織され、9月11日に詳細な審査を行いました。また、今回の審査においては、付託された一般会計について、施策を「組織管理」「行政運営」「戸籍・協働」「健康・福祉」「生活・経済」「社会基盤・安全対策」「教育・文化」の7部門に分けて審査を行いました。

各分野にわたり、延べ51人の委員からの活発なる質疑がなされ、採決の結果、全会一致により原案のとおり認定すべきものと決定しました。

委員	委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
員	員	員	員	員	員	員	員
黒岩	和田	山崎	岡田	田中	清水	牧野	鈴木
陣太	紀昭	真弘	幸二	正彦	亜樹	一仁	磯美
郎							

生涯学習センター施設改修事業



児童コミュニケーションクラブ施設改修事業



公園整備事業



ふれあい館施設改修事業

決算認定に際し現地を視察

8月25日（金）に令和4年度に実施された工事箇所の現地視察を実施し、町担当者から説明を受けました。

特別会計・企業会計

国民健康保険

問 特定健康診査は昨年に比べると少し利用率は上昇したが本町の目指している目標率はどれくらいか。

答 令和5年度の目標は35%を目指している。令和4年度は特定保健指導の受診率も上昇している。

問 実質収支額が年々減額しているが、その要因は。

答 基金を取り崩し補填をしているためである。保険税率は引き上げの方向で料金改定の検討を進めている。

後期高齢者医療

問 収入未済額が増額した理由は。

答 被保険者数が増加したため。

問 督促手数料が増額した要因は。

答 被保険者数の増加や、普通徴収の割合が増えたことも一因である。

介護保険

問 家族介護支援事業として行っている認知症家族のつどいとオレンジカフェとの違いは。

答 オレンジカフェは当事者がメインで行っている。両事業とも今後も続けていく。

問 認知症初期集中支援チームの実績と傾向は。

答 早期受診に繋がっている。今後は増加傾向にあると考える。

問 地域密着型介護サービスが増額している理由は。

答 施設の新設により利用者が増えたため。

水道事業

問 配水量が増加しているが有収水量は減少している。この原因は。

答 原因として考えられるのは漏水と火災時の消火栓等である。漏水については常に調査しているが修繕が追い付いていない。

公共下水道事業

問 負担金が増額しているが理由は。

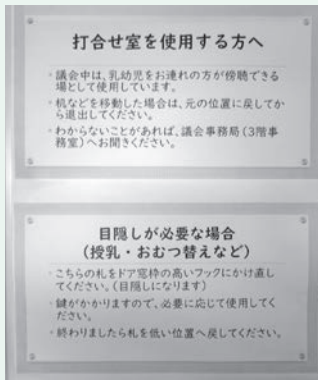
答 光熱費の高騰や流域下水道の老朽化により更新の必要があり負担金が増額傾向にある。



町政を知る良い機会です 議会傍聴にお越しください！

第4回定例会開催 12月5日（火） 午前9時

問合せ先：議会事務局 ☎ 85-5000 FAX 83-3936



開かれた議会を推進するために、本会議中は、乳幼児をお連れの方でも傍聴できる部屋を用意するなど、環境整備を行っています。

令和4年度 一般会計決算

討 論

反対討論

町民のための施策をさらに充実させるべき

大石 舞

令和4年度決算認定に反対の立場で討論する。

第一に、実質収支額についてである。令和4年度は4億3,973万3,000円となった。適正額の指標を用いて計算すると、適正額は最大でも2億1,500万円程度である。物価高騰の中で、必要な施策をもっと打ち出すべきであった。ここ数年の実質収支額を見れば、学校給食費の無償化等にも十分取り組める余地がある。

二点目は予算に対する不用額である。特に不用額の大きい項目は障害者福祉費で、2,327万円余である。例えば福祉タクシー等の利用の補助拡充をはじめ、町の障がい者福祉のあり方を全体的に見直してはどうか。また一般会計全体においても不用額5・4%が適切かどうか、分析が必要だ。

三点目は、町民要望に迅速に対応できたかという点だ。例えばサイクルハウスほほえみのプレハブは、以前より暑さ対策等の要望がボランティアさんより上がっていた。予算15万円程度に対して決算額は5万円余だが、要望に迅速に頂いて頂きたかった。また老人福祉費の予算割合が少ない中で決算額が減っていた等も改善点である。

最後に、児童コミュニティクラブについてである。令和4年度から土曜開所が始まり、保育料も値上がりした。運営費全体に対する保育料の割合は23・7%になり、過去3年間の平均値よりも1%程高い。本場に値上げ額は適正か。また、1日でも1か月でも保育料は1月分満額払う等の運用改善も含めて、保育料の見直しを求めたい。

賛成討論

「つなごう！大井未来計画」の実現に向け
方向性を示した年度としての決算を評価する

岡田 幸二

令和4年度は、第6次総合計画「つなごう！大井未来計画」の2年目となる年で、次世代を見据えた「みんなでつなぐ 大井の未来」の目標に向かって方向性を示す年度としてスタートした。

主な施策としては、4月よりおいゆめバスが本格運行され、持続可能な公共交通システム構築へ向け出発した。待機児童対策として民間保育所の施設建て替え工事への補助、認定こども園の新規開設に対する補助を実施し施設の更なる充実が図られた。農業体験施設四季の里は、利用者サービス向上を目指して指定管理者制度を導入、相和地域の更なる活性化を促進するために同地域の県有地を取得し、その土台作りができた。また環境基本計画が改定され、脱炭素化・カーボンニュートラルに向けてステップアップが図られている。

これらの施策の実行を通して、令和4年度決算の歳入総額は68億3,494万2,000円、歳出総額は63億4,631万6,000円、実質収支は4億3,973万3,000円の規模となった。

財政面から見ると、経常収支比率は87・0%と前年度5・6ポイントの悪化、財政力指数は0・755と3年連続悪化しているが、コロナ禍による財政規模増大の影響と考えられ、注視していく必要があるものの、次第に元に戻っていくとみられる。今後はコロナ感染に引き続き警戒をしつつ、本決算を踏まえたものを次年度以降の予算編成・行政執行に確実に活かし、今まで以上に活性化したまちづくりが展開されることを期待し、賛成討論とする。

議員提案で定数を1名削減 来年9月の選挙から適用

議員定数が、14人から13人へ

「大井町議会議員定数条例の一部を改正する条例」が

原案どおり賛成多数で可決

議会では、議長から

の諮問を受け、議会運

営委員会において令和

4年12月22日から令和

5年7月10日までの計

6回にわたり議員定数

のあり方について、調

査・検討を進めてきま

した。その結果は、従

来よりもさらに議会活

動の見える化に努め、

議会の活動と改革の状

況がより身近に感じら

れるよう変わっていく

必要があるとの条件の

もと、現時点では、大

きな人口の変化が見ら

れないなどの理由によ

り、議員定数14人を維

持するといふもので、

その旨、令和5年8月

7日付けで議長に答申

がなされました。その

後、一部の議員から、

定数を1人削減すべき

であるとの考えから大

井町議会議員定数条例

の一部を改正する条例
が提案されました。

提案理由の要旨は次
のとおりです。

「必ずや訪れる人口減
少問題などから、将来

地方自治体の行財政の
縮小は避けて通ること

ができる」と予測され
る。町民からは削減を

求める声が寄せられて
おり、審議などに必要

とされる人数は、現状
の実数13人においても

十分維持、確保ができ
ている。」

本町における議員定数の経緯

本町の議員定数は、町政施行時には37人であったものが地方自治法の法定人数である22人に改められ、昭和51年の同法改正により法定26人となるも、大井町議員の定数を減少する条例により22人を維持し、昭和59年に同条例改正により20人に、平成8年に18人に改め、平成11年地方分権一括法による法定数の廃止に伴い条例により18人に制定した。その後、平成16年の議員選挙で定員割れとなり平成20年に条例を改正し16人に、平成24年には近隣自治体の動向も考慮した中で14人とし、現在に至る。なお、令和4年11月に執行された補欠選挙で立候補者が現れず、現状の実数は定数割れの13人となっている。

反対討論

重田 有紀

定数削減は

今が適時ではない

本町人口は微増傾向で減少が著しいとは言えない。本町より定数が少ない開成町の議会費総額は本町より遥かに多い。配信費、タブレット賃貸料等、議会改革経費である。積極的情報発信は町民の利益に資するとの意思表示である。本議会は配信もなく、情報発信整備が遅れている。議会改革は急務で、数を減らす改革の後は避けざるべきである。町長選挙の低投票率を見ても、町民の町政や議会への関心は低い。しかし、今だからこそ、定数削減という安易な方法ではなく、議員の資質向上、議会改革の必要性、議会の存在意義を強く示すべきである。

討

論

賛成討論

山崎 真弘

定数削減は

町民の意思

昨年、定数14名のところ13名で活動してきた。それに伴う不都合はなかった。また、足柄上郡の他町の議会は、いずれも定数12名であり、議会運営をしている。1人減らすことで、少数意見がくみ取れないとの意見もあるが、このような意見を議員間に共有すること、十分に反映することが可能である。議員一人ひとりが、今以上にスキルアップをし、議員活動していく姿勢が大切である。将来的に、人口減少が確実に推移していくことを考えると、議員定数削減は、町民の意思であると考えている。

第3回定例会

条 例

大井町議会議員定数条例の一部を改正する条例
(賛成7反対5)

＊議会改革の一環として、議員定数を削減する提案が一部議員よりなされたもの

問 定数を13名とした理由は。

答 議長であっても、ひとりの議員であり、奇数とすれば、その権能を行使する機会ができる考えた。

問 議会基本条例第13条には、議員定数を改正するときは、「広く町民の意見を聴取することに努めるもの」とされているが。

答 決して軽んじているわけではない。

問 議員間で十分に議論がなされたのか。

答 議論がなされたと考えている。

問 議会運営委員会にて結論がなされたが、なぜ提案したのか。

答 提出することで町民に深く理解してもらうためである。

大井町印鑑条例の一部を改正する条例
(賛成11反対1)

＊電子証明書のスマートフォンへの搭載が可能とされたことに伴い、多機能端末機による印鑑登録証明書の交付について、所要の改正をするもの

問 アンドロイド端末は利用できるが、IOS端末は利用できないのか。

答 現時点では、その通りである。

問 印鑑登録証明書の発行枚数は。

答 令和4年度、役場内では4,739件であり、コンビニエンスストアでは585件である。

大井町水道事業給水条例の一部を改正する条例
(賛成11反対1)

＊消費税法の一部が改正されたことに伴い、適格請求書の保存方式などに関する所要の改正を行うもの

問 条例改正により町民への影響はあるのか。

答 料金変更等の影響はない。

問 本町との取引事業者についてもインボイス対応を求めるのか。

答 法律に則って遂行していく。

補正予算

一般会計(第5号)
(賛成全員)

＊歳入では、普通交付税の交付額の決定をはじめとする各種補助金等の決定や令和4年度決算に伴う繰越金の確定額の計上、歳出では、出産・子育て応援交付

金事業費や新型コロナウイルス感染症緊急対策事業費などに係る経費が計上

問 山田総合グラウンドの高木伐採の状況は。

答 今回は、クレートそばの高木25本の伐採である。

問 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の内訳は。

答 農林水産業費、商工費、給食センター管理費等に活用予定。

問 三世代同居等移住定住促進補助金の内訳は。

答 本年度、30万円補助が2件、20万円補助が19件、10万円補助が35件で予定している。

人 事

大井町教育委員会教育長の任命について同意を求めること
(賛成全員)

＊教育長が令和5年9月30日をもって任期満了となるので再度選任するもの

夏^{なつ}莉^り 一^{かず}壽^{とし} 氏
(再任 上大井)

大井町教育委員会委員の任命について同意を求めること
(賛成全員)

＊教育委員が令和5年9月30日をもって任期が満了となるので再度選任するもの

太^{おお}田^た 吉^{よし}昭^{あき} 氏
(再任 金手)



大井町議会のホームページでは、一般質問の内容や委員会の活動等がご覧いただけます。

大井町議会

検索

傍聴における手話通訳派遣について



町議会では、耳の不自由な方が会議を傍聴する際、希望により手話通訳者を配置します。制度の概要は次のとおりです。

○手話通訳を行う会議
公開としている議会の本会議等

○対象者
町内在住の聴覚障がい者

○申込み

手話通訳を希望する方は、原則として傍聴希望日の7日前(その日が閉庁日に当たるときは、その前日)までに、議会事務局へお申込みください。
※申込書その他詳細については、ホームページを参照又は直接お問い合わせください。

第4回臨時会・審議議案と結果

第4回臨時会

7月3日に開催され、補正予算の審議を行った。

一般会計補正予算（第3号） （賛成全員）

*第2のふるさとづくりプロジェクト推進事業及び児童生徒援助事業の計上により、歳入歳出それぞれ61億6,165万6,000円とするもの

問 第2のふるさとづくりプロジェクト推進事業は、単年度事業となるのか。

答 全国に先駆けたモデル事業であり、今年度限りとなる。

問 児童生徒援助事業の今後の進め方は。
答 就学相談において必要性を確認し、福祉部門との連携により進めていく。

審議した議案と審議結果

○は賛成 ×は反対
田村俊二議長は、採決に加わりません。

臨時会・ 定例会の別	議案 番号	議 案 名	議員名（議席順） と審議結果	大石 舞	黒岩陣 太郎	重田 有紀	和田 紀昭	山崎 真弘	岡田 幸二	鈴木 磯美	田中 正彦	牧野 一仁	清水 亜樹	伊藤奈穂子	清水 豊司	審議 結果
第4回 臨時会	33	令和5年度大井町一般会計補正予算 （第3号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第3回 定例会	34	大井町議会議員定数条例の一部を改正する条例について		×	○	×	○	○	×	×	○	○	×	○	○	可決
	35	大井町印鑑条例の一部を改正する条例について		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	36	大井町水道事業給水条例の一部を改正する条例について		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	37	大井町公共下水道使用料条例の一部を改正する条例について		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	38	専決処分の承認について （令和5年度大井町一般会計補正予算（第4号））		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
	39	令和5年度大井町一般会計補正予算 （第5号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	40	令和5年度大井町国民健康保険特別会計補正予算 （第1号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	41	令和5年度大井町後期高齢者医療特別会計補正予算 （第1号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	42	令和5年度大井町介護保険特別会計補正予算 （第1号）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	43	大井町教育委員会教育長の任命について同意を求めること		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
	44	大井町教育委員会委員の任命について同意を求めること		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
	認定 1	決算認定について （令和4年度大井町一般会計）		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	認定 2	決算認定について （令和4年度大井町国民健康保険特別会計）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	認定 3	決算認定について （令和4年度大井町後期高齢者医療特別会計）		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	認定 4	決算認定について （令和4年度大井町介護保険特別会計）		×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	認定 5	利益の処分及び決算認定について （令和4年度大井町水道事業会計）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
	認定 6	利益の処分及び決算認定について （令和4年度大井町公共下水道事業会計）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定

夏休み子ども議場体験ツアーを開催

小学生が議員を体験

はじめに、議会の概要を説明した後に、議長室や議員控え室などの議会関係施設の説明を聞きながら見学し、議場へと入りました。



広報広聴常任委員会広聴分科会では、議会をより身近に感じてもらう機会として、町内在住の小中学生を対象に、8月2日(水)に、初めて「夏休み子ども議場体験ツアー」を開催しました。

当日は、18名の参加申し込みがありましたが、体調不良などの理由で参加できない方もおり、12名の小学生が参加しました。



参加者は議席に座り「議場体験ツアー臨時会」を開会し、大井町笑顔特派員のスベリー・マッキーリーさんが、議員役となり、模擬の一般質問が行なわれ、子ども達は本番さながらのやりとりを真剣に聞き、その後は参加した2名の方からも質問を受けました。



今回は、小・中学生を対象に議場体験ツアーを開催いたしました。が、議会を身近に感じてもらうためにも、幅広い世代への開催を検討していきたいと考えております。



参加した子ども達からは「楽しかった」といった意見のほか「議会のことは興味がなかったけど、少し興味を持てた」、「議会について知ることができた」などの感想が伺えました。

「ぎかいCafe」での意見を町長へ



開かれた議会、町民の皆さまとともに歩む議会を目指して、6月20日から22日の3日間、にわたり、「ぎかいCafe」を初の試みで開催いたしました。

頂戴した貴重なご意見は、9月14日に議長及び広報広聴常任委員会正副委員長より町長へお伝えしました。



第8期高齢者保健福祉計画・

介護保険事業計画は

答 さらになる事業の充実に努めていく



山崎 真弘 議員

問 本計画における現状と課題は。

町長 令和4年度、高齢者における介護認定率は14・4%であり、県内では2番目に低い値である。町民の日頃からの健康意識の高さはもとより「おーい！元気会」など介護予防事業の効果と考えられる。現在、第9期策定に向けたアンケート調査をもとに課題の整理を行なっているところである。

町長 本町としては、地域包括支援センターを高齢者の総合窓口として設置し、高齢者や家族を支援している。認知症総合支援としては、物忘れの気になる方やそのご家族が、専門職と集まり交流するオレンジカフェひだまりを開催している。

問 次期計画の主な施策は。

町長 第9期策定に向けて具体的な施策の目標設定や骨子案を策定委員会で協議しパブリックコメントを経て計画と今後の方針は。

画策していく。

【令和5年ビッグレスキューかながわについて】

問 訓練の概要と本町における対応は。

町長 訓練は、ビオトピア、保健福祉センター等を会場として、県と市町村合同による実践的な医療救護活動訓練である。本町としては、会場案内や車両誘導が主な対応となる。



介護予防事業
おーい！元気会
開催風景

緊急通報時

手話通訳者派遣事業の進展は

答 本年中に導入する予定



重田 有紀 議員

問 窓口での手話通訳は手話奉仕員が担えるか。

課長 手話通訳者を考えている。

問 窓口到手話通訳者の設置がなく人権擁護されていない現状だが、設置は必須では。

課長 前向きに取り組む。

問 手話通訳者の病院派遣時等の不安解消に感染症対策予防接種費の予算化は。

課長 考えていない。

問 県の2時間4,800円の報償費を参考にと要望があったが、

2時間3,000円にした根拠は。

課長 町の有資格者職員の時給を参考にした。

問 他地域の同資格者と比較すべきでは。

課長 上郡で報償統一後研究する。

問 足柄上地域の手話通訳者はほぼ全ての市町に登録しているが、

要綱が不揃いのため処遇に差が生じている。要綱を統一しては。

課長 要綱統一に向け調整している。

問 福祉課と手話通訳者等と定期的に懇談を

持つては。

課長 気軽に会話できる環境づくりは大切。検討する。

問 視覚障がい者支援として声の広報があるが継続は必須か。

課長 情報保障の観点から必要とする人が一人でもいれば継続する。

問 視覚障がい者へ文書送付に配慮は。

課長 点字テプラがあり配慮は可能だが実施していない。

問 代読代筆支援の必要性は。

課長 実施自治体が少ないが、先行事例を参考に研究する。



手話は言語

早急に福祉避難所の設置が

必要と考えるが

答 総合体育館の運用も検討する



和田 紀昭 議員

問 早急に福祉避難所の設置が必要と考えるが見解は。

課長 民間施設などを福祉避難所に指定したいが、現況思ったとおりに進んでいない。

問 総合体育館1階柔剣道場等を要配慮者の受け入れ施設にする考えは。

課長 そういった運用も今後検討はしていきたい。

問 馬場地区の町道14号線、西大井地区の町道11号線の治水対策は。



度々溢水する町道14号

課長 14号線においては平成25年に測量と現状把握、平成27年にJRと協議を行っている。都市計画道路のアンダーパス工事が終わったから、協議を再開していきたい。

町長 11号線においてはハード面の対策の必要性は感じている。様々な側面から整備に向けて検討していきたい。

問 防災備蓄倉庫を活用した行政と自治会の物資運搬計画を含めた協力体制を取ったほうがスムーズではないのか。

課長 受け取りの場所を増やす等イメージを固めて自治会との協力体制を整えていきたい。

問 今年策定された地域防卫计画どおり防災訓練は実施できたか。

課長 本年度はコロナの影響もあり3年間訓練が実施できなかった。ので復習を兼ねて従来通りの訓練を行った。

問 各課対策本部事務分担任は徹底できているか。

課長 タイムラインの整理、各課の連携等に配慮しながら計画を進めていく。

こども家庭庁のような

司令塔となる課の設置は

答 組織変更につながるような方向に向けて検討すべき課題



清水 亜樹 議員

問 こども家庭庁が設置され、またこども基本法が施行されたが国の政策をどのように捉えているか。

町長 国のこども大綱が未策定などのことから、詳細な政策についての情報収集に努め、必要とする施策に適正かつ迅速な対応を心がける。

問 こども家庭庁のように司令塔となる課を設置する考えは。

町長 国の動向も注視しながら、組織変更につながる方向に向けて検討するべき課題と思っている。

課長 子ども・子育て会議の実施状況は。令和4年度に1回開催している。

問 法改正に伴う会議設置条例の改正は。

課長 条例改正に早期に取りかかる。

問 以前も提案したが、児童コミュニケーションクラブでの長期休暇中の昼食提供の検討状況は。

課長 現在も検討中で、

ニーズの把握などに努めているが、現実化は困難な状況。

【選挙投票率について】

問 投票率を向上する取組みは。

選挙委員長 選挙啓発活動や投票環境を整えることが重要であり、投票システムの導入やSNS発信による啓発など種々の取組みをしている。

問 投票所への移動支援は。

選挙書記長 投票所への移動を支援する方法について、前向きに研究をしていく。



登校する子ども達

「荒廃農地対策の対応策は」

答 県や各種団体と情報共有を強化し
人材確保に努める



鈴木 磯美 議員

問 荒廃農地の現状は。
町長 農業者の高齢化や後継者不足から、現状の農地を維持保全することが困難。
問 荒廃農地の把握方法は。
町長 農業委員及び農地利用最適化推進委員が年1回調査している。
問 町が考える課題は。
町長 新たな担い手の確保や農地のあり方が喫緊の課題。

問 【おいゆめバス及び特バスの現状と見直しについて】
町長 「おいゆめバス」の利用状況は。
町長 一般利用者は往路3便、復路5便の生活スタイルでの利用が多い。「登下校ルート」は往路2便の利用が大半。
問 運行方法を見直す考えは。
町長 公共交通のあり方については、意見交換の開催などを通じて、町民の意見・ニーズを把握し、検討を進める。



散見される荒廃農地

問 「特バス」の利用状況は。
町長 1日6人程度。
問 移動支援の方法を見直す考えは。
町長 これからの利用対象者数の動向を注視し、効果的な移動支援の方法を検討する。
問 【野生鳥獣の保護に関する対応について】
町長 行動マニュアルの進捗状況は。
町長 本町独自のマニュアルは策定していないが、関係機関とは、顔の見える関係を構築するとともに実効性のあるものとなるよう町として考え方を整理する。

「介護保険料の段階の細分化は」

答 計画策定委員会の中で検討する



大石 舞 議員

問 特別養護老人ホームの待機状況は。また、解消の見通しは。
課長 待機は23人である。色々なサービスで対応して頂き、特にご不満は聞かないが、アンケートを見ながら次期計画に生かしていきたい。
問 在宅サービスの充実度は。ひかりの里が民間移行してから、老人福祉費の決算額が1,500万円から900万円に下がったが、町はどう認識しているのか。

課長 昨年7月にあしがら成年後見センターを設立したり、一人暮らしの高齢者の緊急時に見守る機器の費用を一部補助する等、政策を進めている。
問 介護のため仕事を辞めた家族が7・3%いらつしやるとデータで挙がっている。家族介護支援を、次期計画の中でもっと大きく位置付けるべきでは。
課長 相談ごととは地域包括支援センターで受け付けている。アンケート調査でも課題を洗い出していく。

問 介護資格取得支援に町として取り組んでほしい。また県と連携して、保健師の確保に努めるべきでは。
町長 保健師は受験者数も少ないが、拡充に向けて今動いている。
問 【マイナンバーカードのトラブル対応について】
町長 暗証番号忘れ等の場合、どう対応すべきか。
課長 カード持参の上、町民課窓口で再設定して頂ければ利用可能になる。



待機解消が待たれる特別養護老人ホーム

教育現場における

ICTの利活用は

答 深い学びに繋げていけるよう

取り組む



黒岩陣太郎 議員

問 一人一台タブレット端末の活用状況は。

教育長 児童生徒の活用状況は、授業中にも

とより、委員会活動や児童会、生徒会においても積極的に活用している。子ども達の発達状況により活用は異なるが様々な場面で利用している。そして、学習状況の記録や、その後のまとめ、新聞作成でも、利用している。

問 課題や授業、家庭学習においての利用状況は。



ICTを活用した授業の様子

教育長 各学校の事情に応じて取り組んでいる。実態としては実際端末を持ち帰り学習に活用する場合や、家庭にある端末等によりログインし、課題作成

【デジタル田園都市に
対する町の対応は】
問 防災、減災や観光、住民サービスの向上のため、自治体におけるWi-Fi整備と活用の考えは。

町長 本町においてはWi-Fi整備が必要となるサービス提供は現在のところ想定していない。費用対効果を加味し他団体の事例を踏まえ調査研究する。

に取り組む場合もある。今後も活用目的を明確にし、安全・安心のもと効果的な活用につなげられるよう努める。

校内教育支援センターの

設置促進は

答 各学校の実態と実情に応じて検討する必要がある

検討する必要がある



伊藤奈穂子 議員

問 本年5月、文科省が発表した不登校対策「COCOLOプラン」

には、保護者の支援が重要とある。保護者の会を設置する考えは。

教育長 個々のケースが違っており、担任や教育相談窓口への相談対応が先決だと考える。

問 教育支援センターの機能強化として、不登校経験者の方による講演会や意見交換会を開催しては。

問 不登校の児童生徒を対象に訪問員による訪問事業の導入は。

教育長 講演会など形にこだわらず、県の取り組み等、情報提供しながら一人一人に寄り添った対応をしていく。

問 不登校の相談窓口の一本化や、オンライン相談も必要では。

教育長 スクールカウンセラーが配置され十分活用されている。オンラインよりも対面の方が悩みを共有するには現実的である。

問 不登校の児童生徒を対象に訪問員による訪問事業の導入は。

教育長 担任や養護教諭等による関わりの中で取組んでいる。

問 フリースクールの参加費用を補助する考えは。

教育長 今後、文科省の動向を鑑み検討したい。

【子育て支援の拡充】

問 こども家庭庁創設により本町の子ども施策に関する組織体制の強化は。

町長 国の動向を見定めた中で必要であれば機構改革の可能性もある。

問 産後ドゥーラを導入する考えは。

町長 現時点では導入する予定はない。



誰ひとり取り残されない
学びの保障を！

町のこの人あの人

体力が続く限りプレーしたい



河原地区
と十四男
はらだ
原田 さん

軟式野球チーム大井町オールドスタースの原田十四男さんを紹介します。

●原田さんは昭和19年生まれの79歳、今でも多いときは週3回プレイヤーとして野球に参加するスポーツマンです。

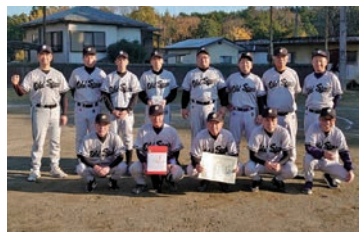
●野球を始めたきっかけは、子供のころ近所の友人とチャンバラ、肝試し、三角ベースなどで遊んだそうです。メイングラウンドは日枝神社の境内。この三角ベースでの野球の面白

さを知ったのがきっかけだったそうです。その後中学軟式野球、高校硬式野球を経て、野球大好き人間の集まりであった、大井町オールドスタースの前身である、大井ヤングースで軟式野球を始めました。当時は野球全盛時代で足柄上郡は企業チームを含めると50チーム以上あったそうです。

●現在も活動中の少年野球チーム大井フレンズのチーム発足時、コーチとして参加。原田さんの指導を受けた方も多いのではないで

しょうか。当時の練習は休日の朝暗いうちから、手作りのバックネットで作手と一体の練習の日々でした。その頃、正しい指導法を学ぶために日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者の資格まで取得されたそうです。

●今後について原田さんは、「神奈川県還暦野球の80歳以上に傘寿クラスがあり皆さんはつらつとプレーしている。私も趣味のガーデニングとともに今後も体力が続く限りプレーしたい。」と話されました。



大井町オールドスタース

議会だよりへの意見募集

町議会では、町政及び議会の情報を皆様にお伝えするため、「議会だより」を年4回発行しています。議会をより身近に感じていただけるよう、紙面のさらなる充実を進めますので、町民の皆様の声をお聞かせください。様式は任意で結構です。いただいたご意見は、今後の編集に活かしていきます。なお、ご意見に対してお返事はいたしませんのでご了承ください。

応募方法

1 電子メールの場合

gikai@town.oii.kanagawa.jp

2 郵送、持参、FAXの場合

〒258-8501 大井町金子1995番地 大井町議会事務局 あて
FAX番号 83-3936

編集後記

第3回定例会では、令和4年度決算審議が行われ、特別委員会を設置し慎重な審議がされました。又、本会議で議員定数を現行の14人から13人に削減する条例改正案が提出され賛成多数で可決しました。町議会では令和6年9月30日に任期満了を迎え、次の町議会議員選挙から新たな定数が適用される予定となります。本誌では我々議員の活動を広く周知し、今月から町民の方の声を聞かせていただく取組みも始めました。皆様のご意見を是非お寄せください。

和田 紀昭

広報広聴常任委員会

(広報分科会)

委員長 清水 亜樹

副委員長 大石 舞

委員 伊藤奈穂子

委員 岡田 幸二

委員 山崎 真弘

委員 和田 紀昭

委員 黒岩陣太郎